

1 身のまわりの生き物を見つけに出かけよう

①チョウがやってくる草や木はどれ?

教科との関連

理科 教科書(啓林館『わくわく理科』):

- | | | |
|-----------------|--------------|--|
| 第3学年 1 生き物をさがそう | 3 チョウを育てよう | 第4学年 1 春の生き物、夏の生き物、秋の生き物、冬の生き物、生き物の1年間 |
| 2 たねをまこう | 植物の育ちとつくり | |
| | 出かけよう、しぜんの中へ | |
| | 5 こん虫のかんさつ | |
| | 植物の一生 | |

ねらい

身の回りの植物やこん虫の様子を調べ、生き物とその周辺の環境との関係についての考えをもつようとする。

留意点

○家のまわりや近くの公園などに生育する植物について、どこに生育していたか、どんなこん虫とかかわっていたなどを記録する活動を通して、植物の体のつくりや育ち方には共通点があるが、色、形、大きさなどは多様であることや、植物の花の蜜を吸ったり、植物の葉などを食べたり、すみかにしているこん虫とかかわって生活していることに気付くようとする。

○こん虫についても、植物と同様に記録する活動を通して、こん虫の体のつくりには共通点があるが、色、形などは多様であることや、植物の花の蜜を吸ったり、植物の葉などを食べたり、すみかにしている植物とかかわって生活していることに気付くようとする。

○一見、同じように見えても、異なる種として認識させることができることが、生物多様性の真の理解に通じるので、生き物の種名を伝える際に、正しい同定ができない場合は、現場では「…のなかま」とし、後で正しい種名を調べるようにする。

例:オブバッタ(在来種)とアカハネオブバッタ(外来種)は、区別することで外来種による侵入の問題を伝えることができる。ただし、幼虫では区別が難しいため、オブバッタのなかまの幼虫として記すようとする。

○身の回りの植物だけでなく、大阪市内で見られる特徴的な植物やこん虫についても調べ、大阪市の自然に愛着をもつようとする。

○栽培や飼育は、愛護の気持ちを育む行為であるが、いたずらに栽培植物や飼育動物を環境に放つと本来の生態系を擾乱するおそれがあるため配慮すること。

○身の回りや大阪市内の植物とこん虫の観察活動を通して、生き物を愛護する態度を育て、身の回りの生き物の様子やその周辺の環境との関係についての見方や考え方をもつようとする。

○季節ごとに植物の成長の様子やこん虫の様子の違いを調べ、植物やこん虫は、その周辺の環境とかかわって生きていることをとらえるようとする。

(参考:データ集「大阪市内の公園緑地・河川等」)

※この章で扱うこん虫の大きさは全長(翅端)で記載しています。



◆学校での生き物しらべ<手順>

①学校の白地図を用意する。もしくは児童に学校の地図を作成させる。

②管理作業員の方等から、危険な生き物の発生状況を確認し、下見を行う。

③教室で注意事項を説明する。

(参考:データ集「小学校生き物しらべ」)

④班分けして調査を行う。筆記ボードが少ない場合は書記担当を設定する。

⑤生き物の名前がわからないものは、タブレットで写真をとっておく。もしくは捕獲、採取して持ち帰る。

⑥図書館や教室で生き物の種名を調べる。
(参考:データ集「生き物調査結果」)

⑦教室に戻って、白地図に見つけた生き物をまとめる。(生き物マップの作成)

⑧できあがった生き物マップを使って、生き物の生育環境・関係性を考えさせる。

○データ集「生き物調査結果」を使用し、見つけた生き物に丸印をつけさせたり、個体数や見つけた場所を記入させるなど、簡単に取り組めるように工夫する。

参考資料

◆大阪市立長居植物園 ホームページ <http://www.nagai-park.jp/n-syoku/>
[コンテンツ情報]

「園内マップ」園内で見られる植物と、花などが見られる時期
「開花情報」最新の園内の開花情報

◆大阪市立自然史博物館 ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

◆咲くやこの花館 ホームページ <http://www.sakuyakonohana.jp/>

熱帯から乾燥地帯、高山、極地圏までの、地球上のさまざまな気候帯に生育する植物約5500種、約15,000株を温室、冷室8つのゾーンにわけて栽培展示する総合植物館です。季節ごとに、さまざまなイベントを開催しています。高山植物や熱帯スイレンなどを開花調整し、一年中見られるほか、季節の花も含め約300種の花を常に楽しめます。

[コンテンツ情報]

「イベント情報」「開花情報」「館長の部屋」

1 身のまわりの生き物を見つけに出かけよう

②学校で生き物をさがしてみよう

ねらい

身の回りの生き物の様子を調べた生き物マップを作成することにより、身の回りに多様な生き物が生息しており、それらと周辺の生き物や環境との関係について考えを持つようとする。

留意点

- マップを作成することにより、植物、こん虫、鳥、水生生物などがどこにどのような様子で暮らしていたかを総合的に整理できるようする。
- 生き物が周囲の生物や環境と関係しあって生きていることに気付くようとする。
- 生き物の観察場所を、「観察園」や「ビオトープ」に限らず、一見、生き物の少なそうな場所にも目を向けさせるようとする。
- 身の回りや大阪市の生き物の観察活動を通して、生き物を愛護する態度を育て、身の回りの生き物の様子やその周辺の環境との関係についての見方や考え方を持つようする。

野外観察時に注意が必要な生き物 (P.10~P.13)



オスズメバチ

刺激すると刺したり噛んだりする。えさになるガの幼虫をさがしたり、巣は土の中だが、巣材用の樹皮をとりにきたりする。



ヨコヅナサシガメ
握ると刺す。



アオバアリガタハネカクシ
つぶして体液がつくと炎症をおこす。



セアカゴケグモ
握ると噛むことがある、毒がある。



軒下など身近なところに巣を作るため、知らずに巣に近づいて攻撃されることがある。刺されるとアナフィラキシー反応を起こすことがある。



セグロアシナガバチ



- 植物の葉や花をちぎったり、昆虫を採集したり、標本をつくることを、命を大切にしない行為だという誤解を生まないように注意する。

- 多くの生き物を守っていくための学習や研究のためには、必要最低限の採集は必要な行為である。

- 生き物が見つかからなかったり、少なかったりする場合は、その理由を考えさせる。

- 薬剤散布や菜園の環境、また校内の整備工事による変化等も生き物の分布に関係することがある。

(参考: データ集「野外観察時に注意が必要な生き物」)



チャドクガ

幼虫はツバキやサザンカなどを食い荒らす。体表の棘に毒があり、刺されるとひどく炎症を起こす。棘だけでも風で飛ぶので近づかないようにする。



ヒロヘリアオイラガ

幼虫の棘に毒があり、刺されると腫れる。サクラやケヤキの幹に繭の殻が残っているが、この殻にも棘がついているので注意。



ニホンアマガエル

体表の粘液に毒があり、カエルを触った手で、目をこすると炎症をおこす。